

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺		
所在地	静岡県焼津市大覚寺2丁目19-3		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2275100441-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaiokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2275100441-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成27年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して丸10年が経過しました。主に基本理念の地域とのつながりやひとりひとりの個性を大切に日々のケアにあたっています。その他にも年間目標をたて笑顔あふれる施設を目指しながら穏やかに生活ができるように援助しています。母体である法人の医療機関とも密に連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年開設と長い歴史をもつ事業所ですが、管理者は一昨年交替して新体制となっています。従来のよいことは引き継ぎ、改良点は早期に試みるとの考えから、例えば会議運営は職員意見を募ることを主としたボトムアップ式に替えました。本年度は①外気浴②外食③家族とのお出かけを生活の中に織り交ぜ、「外出の機会を増やす」ことに力を入れています。好天日には広い駐車場を活用してガーデンランチを愉しみ、普段食の細い人が完食したとの喜びも味わいました。「何が食べたい?」と聴取し、また気持ち言葉に乗らない人にはメニューを見ながら選べるレストランに出かけ『見て堪能』『選んで嬉しい』企画が実現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一年に一度、理念や目標について職員間で話し合いの場を設け見直している。	法人理念が掲示され、また年間目標として事業所理念もあります。年度初めに立案の個人目標は玄関脇の職員写真に添えられています。振り返りもおこなわれ、本年度の目標はほぼ達成しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に入り地域の行事にも積極的に参加している。	櫓を組んで盆踊りに興じるふるさと祭りには18名分の席を用意してもらえ関係にあり、車いす利用も歓迎してもらえ助かっています。近所から見頃の月下美人や菊の鉢植えが届けられ、利用者の目の保養となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており地域住民に参加していただいたり回覧にて広報誌を回覧して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や実地指導の結果を報告しそれに沿ったサービスの見直しをおこない、向上に努めています。	開催日を定め年間計画に位置付け隔月開催が叶っています。毎回防災の話題が挙がることから地域の関心事であることが見え、「ここがあるので心強い」との声も聞かれています。次年度は町内会長、組長も加わるようになっており、さらに盛況となることが予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議への出席は毎回していただき又、突発的な事があれば電話やメールにて対応していただき連携を図っています。	長寿福祉課、地域包括支援センターからは運営推進会議に毎回参加を得ており、四半期毎のサービス事業者連絡会での協議を含め、情報交換の場が定期的に設けられています。介護相談員は2～3ヶ月ごとに訪れ、利用者の様子を第三者の眼で伝えてくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【身体拘束0宣言】の事業所として開設当初から職員一丸となって取り組んでいます。	忙しい時間帯に制止するような言葉がでてしまうことがあり、その場で管理者が注意指導しています。身体のみが拘束に係るとの認識が拭い去れず、スピーチロックへの概念浸透が課題ですが、帰宅願望があり落ち着いた利用者には統一したケアを取り決めています。	法人研修はありますが、すべての職員が1回はじっくり学べるよう、外部講習も含め順次の参加を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者の状態(表情や身体、皮膚など)を把握し、普段と違った状態の時は職員間で情報を共有し話し合いをおこなっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている入所者がいますが今のところそれについて学ぶ機会を持っていません。今後機会があれば是非学びたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人や家族の困っていることや、施設での生活の意向を伺っています。退所による解約、料金改定については十分に説明をおこないご理解いただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者は普段からの職員との会話、家族は面会時に職員から近況をお話させていただき、家族の思いも汲み取るように努めています。	5月の家族会では防災訓練を見学してもらい、また運営推進会議と併催でのお餅つきも楽しみ、面会だけに留まらない交流があります。「歩かせてほしい」との要望には、カレンダーに歩行訓練があった日に印をつけてミエル化を図った例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務内での会話や月に一回スタッフ会議を設け職員の意見を聞いています。	スタッフ会議は年間行事担当、司会、書記と輪番で役割と議題を決め、職員が主体となるやり方に替えています。また、同席できない職員の代弁をしてもらう方式も導入しました。その結果、修繕をはじめハード面の改善が高まっています。	管理者指導に加え、今後は職員間で相互にフィードバックし合える態勢となることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の基準に従い各職員が向上心をもって働けるよう努めています。(リフレッシュ休暇、資格手当、賞与支給、時間外手当等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の研修会には担当を決め参加しています。外部への研修は少ないため今後は積極的に参加できるように努めたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1ヶ月に1回法人の合同会議がありテーマに沿った発表や報告があります。その際は様々な部署との交流があります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の意向を伺い対応しています。日々の生活の中でも何気ない言葉に注目し、サービスに繋がるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の意向を伺い対応しています。面会時になるべく職員が話しかけ近況を伝えたり、家族からの要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に自宅で生活して困っていたことや、他施設から入所するときは情報提供をしていたが、今何に困っているのか見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と職員が対等な関係でいられるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や何か問題が発生した時には電話にて報告しています。職員と家族で本人を守っていけるような関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同伴でお墓参りや、食事にでかけたり、近所の美容院に職員と行かれるかたがいます。面会はいつでも気軽にいらしていただけるように努めています。	「自宅の片づけがしたい」という人、他の施設にいる伴侶に会いたい人、好みの理髪店に通う人、絵を描くことが習慣だった人にはぬり絵と様々な意向に沿って、これまでのつながりや趣味が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人のペースや能力を見極め、何か作業をする時には同じような方と一緒にしていただいたり職員が間に入って関係を取り持っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	買い物や外出時に外で顔を合わせると近況を伺ったり、施設行事などの参加を呼びかけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員や入所者同士の会話の中から希望があれば取り入れるように心がけています。	敢えて尋ねても「何もないよ」との受け答えとなるため、日常の会話のなかで汲み取っています。利用者同士の会話にも耳を向け、また入浴や散歩で1対1となれる時間を大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する前の様子など本人、家族から伺いながら、また日常生活をしていく中で見えてくることもあり組み込んでケアしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録にて職員間で共有しています。できそうなことはなるべくやっていただける様につとめています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意向を伺い介護計画を作成しています。途中で状態変化があった時は意見を聞き介護計画に反映させています。	居室担当職員が目標に関わる項目をプランから拾いだし、状況をケアマネージャーに報告することで、スタッフ会議や業務の合間をみつけての実地カンファレンスが慣行されています。	家族を交えた担当者会議の内容が充実することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日常の記録は残してありいつでも確認できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添い、買い物、外出などの支援をおこなっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し施設の存在を理解していただいています。ご近所の方の訪問も時々あります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在全入所者が同一法人の医療機関に受診しています。近隣にあるため定期的な受診ができ主治医との連携を図っています。	全員が母体医療機関である協力医に変更しています。往診はありませんが、受診は常の状態がよくわかっている職員が付き添っています。ただし、専門医は家族にお願いし、変化については口頭で収集しています。週に1度訪問看護の健康管理もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師の訪問があり状況を報告しています。その際、看護師より助言、指導をしてもらい対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をし主治医・本人・家族とともに今後について話し合いをおこない対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者の容態が急変したときは速やかにかかりつけ医に搬送しています。同時に家族に連絡をとり付き添いを依頼しています。	看取りはおこなわない方針で、今後の取組みも考えてはおりません。入居時にも家族と合意形成できていて、また緊急時は救急搬送として搬送希望先も確認のうえ書面化しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し連絡や対応方法について周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回防災訓練をおこなっており火災や津波に対応した避難方法を身につけています。訓練には地域住民、家族にも参加を呼びかけています。	昼間の火災、夜間の地震火災を想定して、消防署職員の立ち合いの下午2回おこなっています。事業所訓練には近隣住民も集い、今では避難誘導が手慣れたものとなり心強く感謝に堪えません。米、水の備蓄が3日分あります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけ時は特にプライバシーに注意しながら声掛けを行っています。	法人主催の接遇研修の内容はスタッフ会議で職員一人ひとりに周知され、身だしなみや言葉遣いにおけるハウスルールもあります。呼称の「ちゃん」づけは原則NGですが、家族や本人の希望であればOKとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら自己決定できるようにつとめています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせ寄り添いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に出かけたり、行事や祝い事の際にお化粧を施すなど身だしなみやおしゃれの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全入所者の好みに合わせることはできませんが好きなものを聞きメニューに組み込んでいます。準備や調理等できることを職員と一緒にしています。	毎日の食事では食器の洗い拭きに勤しむ利用者もいますが、特に行事食では「自分が食べる分はつくろう～」と奨励し、恵方巻、おはぎ、お花見弁当が利用者参画で手造りされています。2ヶ月毎におこなう誕生日会ではケーキデコレーションも喜びの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態に合わせて、量や食事形態を決めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ個別に対応しています。義歯のある方は毎晩洗浄し保管しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを理解し、トイレへの声かけ、誘導を行っています。安易におむつを使用するのではなくなるべくトイレでの排泄を促せるように心がけています。	在宅では車いすだった人がシルバーカーへと向上し、現在は綿パンツとパッドとなった例もあり、パッドや紙オムツは家族の経済的負担にもなるとして、なるべく使わないことを旨としています。誘いがけは耳元で「ちょっと行くよ」と小声でおこない気分を害さないよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排泄(便)記録を行ない排便状況を日々申し送りし職員間で情報を共有しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間は手薄になり危険を伴うためおこなっていませんが日中は曜日に関係なく毎日入れる様になっています。	週2~3回をめやすに湯を張っています。一番風呂にこだわる人に応え、また個々のボディシャンプーやソープを備えています。ゆず湯をはじめとするかわり湯を提供することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や本人のペースによって就寝援助をおこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をそれぞれのケース記録に綴じ確認できるようにしています。変更があれば共用のノートに記載し解るようになっていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの好きなことややりたいことを見極め充実した日々を過ごしていただけるよう援助しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外へ散歩に行ったり外出レクの計画もあります。それぞれの希望を聞き外食にもお連れしています。	海上花火やふるさと祭りといった地域行事は恒例外出となり、初詣は身体状態を考慮して2つの寺社に分かれ、コスモス畑では家族から「来てよかった」と喜びも届いています。また、広い駐車場を活用してガーデンランチにもチャレンジしました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員と出掛け、支払いができる方は見守りの中自分の財布から支払ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば手紙を出したり電話をかける等支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、居間のカーテンは落ち着いた色を選んでいます。季節を感じるできるように季節の花を飾ったり、レクでは季節にあった歌を歌っています。	リビングのカーテンは草原を想わせるグリーンで、利用者と選んだものです。テラスでは中庭の畑で職員が草取りをする姿を利用者が眺め、また日向ぼっこで寛ぐこともあります。清掃は毎朝早番がおこない、床は年2回業者がワックスがけに入っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者の状況で不定期に席替えをしています。一人ひとりが居心地やすい環境づくりにとめています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものを施設に持ち込むことで馴染みの環境の中生活していただけるようになっています。	壁一面ポスターや写真が張り巡らされた自慢の居室は、利用者が率先して披露くださいました。大好きな職員とのツーショット写真や思い入れのある日本人形を飾り、雑誌を読む小ぶりの机と椅子が置いたり、自室に洗濯物を干したい人、それぞれの多様な趣が感じられます。	目の届かない箇所(テレビの後ろ、棚の上等)への清掃チェックを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を記したり自室が解らなくなる方には居室の前に名前を貼り解るようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺		
所在地	静岡県焼津市大覚寺2丁目19-3		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して丸10年が経過しました。主に基本理念の地域とのつながりやひとりひとりの個性を大切に日々のケアにあたっています。その他にも年間目標をたて笑顔あふれる施設を目指しながら穏やかに生活ができるように援助しています。母体である法人の医療機関とも密に連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年開設と長い歴史をもつ事業所ですが、管理者は一昨年交替して新体制となっています。従来のよいことは引き継ぎ、改良点は早期に試みとの考えから、例えば会議運営は職員意見を募ることを主としたボトムアップ式に替えました。本年度は①外気浴②外食③家族とのお出かけを生活の中に織り交ぜ、「外出の機会を増やす」ことに力を入れています。好天日には広い駐車場を活用してガーデンランチを愉しみ、普段食の細い人が完食したとの喜びも味わいました。「何が食べたい？」と聴取し、また気持ち言葉に乗らない人にはメニューを見ながら選べるレストランに出かけ『見て堪能』『選んで嬉しい』企画が実現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一年に一度、理念や目標について職員間で話し合いの場を設け見直している。	法人理念が掲示され、また年間目標として事業所理念もあります。年度初めに立案の個人目標は玄関脇の職員写真に添えられています。振り返りもおこなわれ、本年度の目標はほぼ達成しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に入り地域の行事にも積極的に参加している。	櫓を組んで盆踊りに興じるふるさと祭りには18名分の席を用意してもらえ関係にあり、車いす利用も歓迎してもらえ助かっています。近所から見頃の月下美人や菊の鉢植えが届けられ、利用者の目の保養となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており地域住民に参加していただいたり回覧にて広報誌を回覧して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や実地指導の結果を報告しそれに沿ったサービスの見直しをおこない、向上に努めています。	開催日を定め年間計画に位置付け隔月開催が叶っています。毎回防災の話題が挙がることから地域の関心事であることが見え、「ここがあるので心強い」との声も聞かれています。次年度は町内会長、組長も加わるようになっており、さらに盛況となることが予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議への出席は毎回していただき又、突発的な事があれば電話やメールにて対応していただき連携を図っています。	長寿福祉課、地域包括支援センターからは運営推進会議に毎回参加を得ており、四半期毎のサービス事業者連絡会での協議を含め、情報交換の場が定期的に設けられています。介護相談員は2～3ヶ月ごとに訪れ、利用者の様子を第三者の眼で伝えてくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【身体拘束0宣言】の事業所として開設当初から職員一丸となって取り組んでいます。	忙しい時間帯に制止するような言葉がでてしまうことがあり、その場で管理者が注意指導しています。身体のみが拘束に係るとの認識が拭い去れず、スピーチロックへの概念浸透が課題ですが、帰宅願望があり落ち着いた利用者には統一したケアを取り決めています。	法人研修はありますが、すべての職員が1回はじっくり学べるよう、外部講習も含め順次の参加を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者の状態(表情や身体、皮膚など)を把握し、普段と違った状態の時は職員間で情報を共有し話し合いをおこなっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている入所者がいますが今のところそれについて学ぶ機会を持っていません。今後機会があれば是非学びたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人や家族の困っていることや、施設での生活の意向を伺っています。退所による解約、料金改定については十分に説明をおこないご理解いただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者は普段からの職員との会話、家族は面会時に職員から近況をお話させていただき、家族の思いも汲み取るように努めています。	5月の家族会では防災訓練を見学してもらい、また運営推進会議と併催でのお餅つきも楽しみ、面会だけに留まらない交流があります。「歩かせてほしい」との要望には、カレンダーに歩行訓練があった日に印をつけてミエル化を図った例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務内での会話や月に一回スタッフ会議を設け職員の意見を聞いています。	スタッフ会議は年間行事担当、司会、書記と輪番で役割と議題を決め、職員が主体となるやり方に替えています。また、同席できない職員の代弁をしてもらう方式も導入しました。その結果、修繕をはじめハード面の改善が高まっています。	管理者指導に加え、今後は職員間で相互にフィードバックし合える態勢となることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の基準に従い各職員が向上心をもって働けるよう努めています。(リフレッシュ休暇、資格手当、賞与支給、時間外手当等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の研修会には担当を決め参加しています。外部への研修は少ないため今後は積極的に参加できるように努めたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1ヶ月に1回法人の合同会議がありテーマに沿った発表や報告があります。その際は様々な部署との交流があります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の意向を伺い対応しています。日々の生活の中でも何気ない言葉に注目し、サービスに繋がるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の意向を伺い対応しています。面会時になるべく職員が話しかけ近況を伝えたり、家族からの要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に自宅で生活して困っていたことや、他施設から入所するときは情報提供をしていたが、今何に困っているのか見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と職員が対等な関係でいられるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や何か問題が発生した時には電話にて報告しています。職員と家族で本人を守っていけるような関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同伴でお墓参りや、食事にでかけたり、近所の美容院に職員と行かれるかたがいます。面会はいつでも気軽にいらしていただけるように努めています。	「自宅の片づけがしたい」という人、他の施設にいる伴侶に会いたい人、好みの理髪店に通う人、絵を描くことが習慣だった人にはぬり絵と様々な意向に沿って、これまでのつながりや趣味が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人のペースや能力を見極め、何か作業をする時には同じような方と一緒にしていただいたり職員が間に入って関係を取り持っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	買い物や外出時に外で顔を合わせると近況を伺ったり、施設行事などの参加を呼びかけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員や入所者同士の会話の中から希望があれば取り入れるように心がけています。	敢えて尋ねても「何もないよ」との受け答えとなるため、日常の会話のなかで汲み取っています。利用者同士の会話にも耳を向け、また入浴や散歩で1対1となれる時間を大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する前の様子など本人、家族から伺いながら、また日常生活をしていく中で見えてくることもあり組み込んでケアしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録にて職員間で共有しています。できそうなことはなるべくやっていただける様につとめています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意向を伺い介護計画を作成しています。途中で状態変化があった時は意見を聞き介護計画に反映させています。	居室担当職員が目標に関わる項目をプランから拾いだし、状況をケアマネージャーに報告することで、スタッフ会議や業務の合間をみつけての実地カンファレンスが慣行されています。	家族を交えた担当者会議の内容が充実することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日常の記録は残してありいつでも確認できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添い、買い物、外出などの支援をおこなっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し施設の存在を理解していただいています。ご近所の方の訪問も時々あります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在全入所者が同一法人の医療機関に受診しています。近隣にあるため定期的な受診ができ主治医との連携を図っています。	全員が母体医療機関である協力医に変更しています。往診はありませんが、受診は常の状態がよくわかっている職員が付き添っています。ただし、専門医は家族にお願いし、変化については口頭で収集しています。週に1度訪問看護の健康管理もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師の訪問があり状況を報告しています。その際、看護師より助言、指導をしてもらい対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をし主治医・本人・家族とともに今後について話し合いをおこない対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者の容態が急変したときは速やかにかかりつけ医に搬送しています。同時に家族に連絡をとり付き添いを依頼しています。	看取りはおこなわない方針で、今後の取組みも考えてはおりません。入居時にも家族と合意形成できていて、また緊急時は救急搬送として搬送希望先も確認のうえ書面化しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し連絡や対応方法について周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回防災訓練をおこなっており火災や津波に対応した避難方法を身につけています。訓練には地域住民、家族にも参加を呼びかけています。	昼間の火災、夜間の地震火災を想定して、消防署職員の立ち合いの下午2回おこなっています。事業所訓練には近隣住民も集い、今では避難誘導が手慣れたものとなり心強く感謝に堪えません。米、水の備蓄が3日分あります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけ時は特にプライバシーに注意しながら声掛けを行っています。	法人主催の接遇研修の内容はスタッフ会議で職員一人ひとりに周知され、身だしなみや言葉遣いにおけるハウスルールもあります。呼称の「ちゃん」づけは原則NGですが、家族や本人の希望であればOKとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら自己決定できるようにつとめています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせ寄り添いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に出かけたり、行事や祝い事の際にお化粧を施すなど身だしなみやおしゃれの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全入所者の好みに合わせることはできませんが好きなものを聞きメニューに組み込んでいます。準備や調理等できることを職員と一緒にを行っています。	毎日の食事では食器の洗い拭きに勤しむ利用者もいますが、特に行事食では「自分が食べる分はつくろう～」と奨励し、恵方巻、おはぎ、お花見弁当が利用者参画で手造りされています。2ヶ月毎におこなう誕生日会ではケーキデコレーションも喜びの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態に合わせて、量や食事形態を決めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ個別に対応しています。義歯のある方は毎晩洗浄し保管しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを理解し、トイレへの声かけ、誘導を行っています。安易におむつを使用するのではなくなるべくトイレでの排泄を促せるように心がけています。	在宅では車いすだった人がシルバーカーへと向上し、現在は綿パンツとパッドとなった例もあり、パッドや紙オムツは家族の経済的負担にもなるとして、なるべく使わないことを旨としています。誘いがけは耳元で「ちょっと行くよ」と小声でおこない気分を害さないよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排泄(便)記録を行ない排便状況を日々申し送りし職員間で情報を共有しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間は手薄になり危険を伴うためおこなっていませんが日中は曜日に関係なく毎日入れる様になっています。	週2~3回をめやすに湯を張っています。一番風呂にこだわる人に応え、また個々のボディシャンプーやソープを備えています。ゆず湯をはじめとするかわり湯を提供することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や本人のペースによって就寝援助をおこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をそれぞれのケース記録に綴じ確認できるようにしています。変更があれば共用のノートに記載し解るようになっていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの好きなことややりたいことを見極め充実した日々を過ごしていただけるよう援助しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は戸外へ散歩に行ったり外出レクの計画もあります。それぞれの希望を聞き外食にもお連れしています。	海上花火やふるさと祭りといった地域行事は恒例外出となり、初詣は身体状態を考慮して2つの寺社に分かれ、コスモス畑では家族から「来てよかった」と喜びも届いています。また、広い駐車場を活用してガーデンランチにもチャレンジしました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員と出掛け、支払いができる方は見守りの中自分の財布から支払ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば手紙を出したり電話をかける等支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、居間のカーテンは落ち着いた色を選んでいます。季節を感じるできるように季節の花を飾ったり、レクでは季節にあった歌を歌っています。	リビングのカーテンは草原を想わせるグリーンで、利用者を選んだものです。テラスでは中庭の畑で職員が草取りをする姿を利用者が眺め、また日向ぼっこで寛ぐこともあります。清掃は毎朝早番がおこない、床は年2回業者がワックスがけに入っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者の状況で不定期に席替えをしています。一人ひとりが居心地やすい環境づくりにつとめています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものを施設に持ち込むことで馴染みの環境の中生活していただけるようになっています。	壁一面ポスターや写真が張り巡らされた自慢の居室は、利用者が率先して披露くださいました。大好きな職員とのツーショット写真や思い入れのある日本人形を飾り、雑誌を読む小ぶりの机と椅子が置いたり、自室に洗濯物を干したい人、それぞれの多様な趣が感じられます。	目の届かない箇所(テレビの後ろ、棚の上等)への清掃チェックを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を記したり自室が解らなくなる方には居室の前に名前を貼り解るようにしています。		